受粉

トマトトーンとジベレリンの混合剤をつくり、子房に噴霧する。ホルモンの濃度は高温期は薄く、低温期は濃くします。

◉ホルモン剤のつくり方

●低温期（20℃以下）

水1ℓに対し＝トマトトーン33cc～20cc＋ジベレリン 200mg

（約30～50倍）　（約200ppm）

●高温期（20℃以上）

水1ℓに対し＝トマトトーン20cc～10cc＋ジベレリン 170mg

（50～100倍）　（170ppm）

開花当日と開花前日の花房に同時に処理する。
交配はミツバチでも良い。

摘果

実が鶏卵大になったら、形のいいものを二～三個残して、ほかは取り除きます。

管理

土壌の水分が多いと、果実は大きくなりますが甘味が少なくなります。また、日中の温度が三十度以上にならないよう換気が大切です。

支柱を張られて
どんどんと成長を…

収穫（五月）

開花してから五十日～五十五日で収穫するのが標準で、若切りは品質をおとします。

前の年の十二月中旬に種をまき、丹精こめて栽培されたメロンも色よく熟し、ハウスの中は甘い香りでいっぱいです。

出荷

もぎとられたメロンは一つひとつラベルを張られ、箱詰されて出荷されます。

色よく実り、いよいよ収穫です

いちご

苗づくり（四月）

前の年に共同網室で育てた親株を、株間一・二メートル、うね間一・八メートルの間隔で植え、植えつけ後は乾燥させないようにランナー（子苗）を育てます。

仮り植え（七月下旬）

親株から出た本葉二～三枚の子苗を切り離して、幅一メートルのベットに四条植えします。

照りの厳しい時期だけに、仮植してから根づくまでは一日に五～六回水かけをします。

葉かき（八月上旬～九月下旬）

葉かきの作業は炎天下で

ハウスのビニール張り（十月下旬）

寒さに向かってのビニール張りは共同作業で行います。一株九〇坪を張るのにかかる時間は、十人で約四十分かかります。

このハウスの中で寒さを知らず、すくすくと育ちます。

また、いちごが休眠し定植するまでに三～四回、葉を三枚位残してほかの葉をかきます。これは茎を育てるために行うものです。

また、八月二十五日から二十日間花芽分化促進のために、シルバーポリトウをかけます。

定植（九月下旬）

苗は一本のうねに二本ずつ植え、植える時は根をよく広げて浅植えにします。

いちごは乾燥に弱いので、うねの間に水かけ用のホースを通します。

1つのうねに
2本ずつ植えました

とび出しは　ぼくも車も　どっきんこ